

南丹市陸協通報

第37回南丹市陸上競技選手權大会を開催



最優秀選手賞を受賞した東輝中の木村君、松本君、田中さん

2018 年 7 月 21 日、府立丹波自然運動公園において、第 37 回南丹市陸上競技選手権大会を開催しました。

大会当日は、気温36度を超える猛暑の中、小学生の部から一般の部に至るまで、480人の選手がそれぞれの種目に挑み、好記録も数多く出ました。

その中でも中学生男子の部、110mJH で亀岡市立東輝中学校の木村友東君と



酷暑の中力走する選手

松本望君がともに 14"50 (同記録着差有) で大会新記録を出し、また中学生女子の部、 砲丸投げで、同じく亀岡市立東輝中学校の 田中裕梨さんが 13m78 の大会新記録で優 勝し、大会の最優秀選手賞を男女それぞれ

受賞しました。



力投の女子ハンマー投

2020 東京オリンピック・パラリンピックへの道 I

副理事長兼審判部長 内藤 竹司

2020年東京オリンピック・パラリンピックまであと2年を切り、急ピッチで関係施設が整備されています。そんな中、我が南丹市陸上競技協会より、東京オリンピック・パリンピックの出場第一号が内定しました。

その方は、内藤竹司副理事長兼審判部長です。

選考過程の多くの難関を突破され、陸上競技の跳躍審判員として、 "一生に一度しか味わえない最高の国際舞台で最高の競技を肌で感じたい"と内藤氏談。

これから、2020年東京オリンピック・パラリンピックが終了するまで、内藤氏の「オリンピックリポート」をこの通報でお伝えしていきます。

2016 年 12 月 3 日、亀岡市で市郡町村陸協代表者会議が開催され、その席上で京都陸協 長屋審判部長から、「日本陸連より 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに京都陸協から 5 名の審判員を派遣してほしいという依頼が来ている。オリンピックとパラリンピックの両方に参加できることや概ね 60 歳までであることが条件である。」とのことであった。



オリンピック・パラリンピックに向け意気込む内藤部長

会議終了後、私は長屋部長に 「推薦お願いします。仕事もや めてオリンピックに専念しま す。」と言ってしまった。

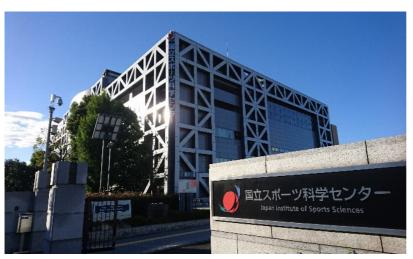
その後の京都陸協理事会で慎重に審査され、翌年の1月下旬に競技役員候補の決定通知をいただいた。

仕事は本当に早期退職し、仕事場の歓送迎会の挨拶では「オリンピックを目指すために早期 退職することにしました」と言い切った。 そして次の難関は、審判員に参加するためには NTO の資格を取得しなければいけなかった。NTO とはナショナル・テクニカル・オフィシャル(国内技術委員)の略である。

日本陸連より通知が届き、2017年11月18日~19日、東京の味の素・ナショナルトレーニングセンターで、基礎試験は日本語で、NTO認定試験は英語による設問で実施する。とのことであった。

"これで終わった・・"と思った。

高校のときの英語の評価は悲しいかな「2」。まあ当たって砕けろと思い、 前日より東京入りしNTO資格取得研修会に挑んだ。



味の素・ナショナルトレーニングセンター

問だけが英語の問題で、後はすべて日本語の問題だった。

試験が開始する前に試験官が、 わかる問題からやったほうがいいですよとアドバイスがあったが、几帳面な私は1番から順番に解いていった。

しかし、思った以上に問題の 数が多く、時間切れで終了となってしまった。 初日はいきなり基礎テスト。陸上競技のルールに関する基礎問題がたくさん出題されたが、これは資格取得には関係ないとのことで安心し、その後の講習を受けた。

最終日の試験ではすべてが英語かと思いきや、日本陸連の方が事前に英語の試験をやってみて、これはできないと判断し、当日は1



NTO資格取得研修会の様子

最後に、日本陸連の方が「合否連絡は2月にメールでする。しかしこの資格 試験に合格したからといってオリンピックの審判員に内定したわけではない。」 と釘を刺された。そして運命の2月末にメールが届いた。

その結果やいかに・・・。

美山小 山田さん 走幅跳で日清食品カップ全国大会へ



南丹市立美山小学校6年 山田 碧美さん

7月1日、「日清食品カップ」第34 回全国小学生陸上競技交流大会 京都 府予選会が開催され、美山小学校6年 生の山田碧美さんが、走幅跳で見事優 勝し、全国大会の出場を決めました。

当日、午前中に行われた予選では、 1回目の跳躍で 4m35 を記録し、午

後の決勝へとコマを進め、決勝進出 12 名の選手の中で唯一 4m越を記録。

陸上競技に興味を持ち、一緒に目標を持って陸上競技に取り組む同級生の存在も大きく、昨年度からリレーチームを組んで、南丹市選手権や府小学生陸上競技選手権大会にも出場し、今年度も週に1~2回、放課後に練習を重ね、その輪は下級生にも広がりを見せています。



走幅跳に興味を持ったのは、インカレ入賞レベルであった父親の影響が大きいようです。直接の指導やアドバイスはほとんどないものの、本人の将来の目標として日々の頑張りを支えているようにも思われます。

8月18日の「日清食品カップ」本戦では、入賞を目標に練習に励んでいます。例年の結果から推察すると、入賞ラインは 4m55以上の記録が必要であり、助走スピード・強い踏切から角度のあるジャンプを意識して練習に取り組んでいます。

南丹市陸上競技協会のサポート、練習環境を提供していただいた明治国際医療大学に は心より感謝申し上げます。



~美山小学校 明田校長 寄稿~

7月21日、南丹選手権の際に、全国大会出場への抱 負を聞いたところ、突然であったためか、少し戸惑いな がらも、後日改めてメッセージを寄せてもらいました。